

●主な活動の記録 (1月～3月)

今年は何かがはじけそう！！

1月10日(土) 定例活動 矢田山遊びの森

年明け初めの定例活動は、好天に恵まれ順調にスタートを切ることが出来た。

通常通り朝10時、スケジュール説明の後、ラジオ体操で年末年始で硬くなった体をほぐし、①頂上展望台の眺望を良くする為の伐木班、②植栽地の調査班、③道具類の整理班に分かれて昼まで作業。

12時過ぎから理事長の新年の挨拶、女性陣が中心で調理の焼き餅入りの温かい”ぜんざい”を大鍋の湯気で暖をとりながら新年を祝った。植栽地のあちこちに”イノシシのぬた場”と化した所もあるが、みつまたの花も見られた。しばらく手入れをしていなかった部分では道がかなり藪化しているので、幹回り10センチ近くまで大きくなった山桜の花の季節までは作業が必要。頂上展望台の伐木班、周囲がだいぶすっきりしてきて、ハイカーの方々に”ありがとう”と声掛けして頂いた。帰路軽トラがパンク、今年は私たちの活動も”はじける”かもと期待を込めて故障を受け止めた。



新年の挨拶



除伐作業



植栽地調査



餅焼き

1月24日(土) 定例活動 矢田山遊びの森

参加者23名。午前中大半が”みんなの森”遊歩道一番奥の辺りの整備のための草刈り、残りはFV連「緑の募金」公募事業の一環として、4月に予定のイベント、竹を利用した紙すきに使うハガキ大の木枠づくりを実施。午後、草刈り班はFV連の公募事業として榊野工務店横の竹林へ移動。取り敢えず、枯れ竹の伐採を中心に整備を進めた。木枠づくりは午前に続いた作業。



草刈り



木枠づくり



竹の伐採

2月14日(土) 定例活動 矢田山遊びの森

前日の雪が所々残っているものの比較的穏やかなこの日、参加者20名。紙すき用の木枠づくりをする女性

を含む4名を残し、他は本日の作業地頂上展望台へ徒歩と軽トラで向かい、10時半頃到着。朝礼後、「緑の募金」公募事業としての展望台の眺望回復作業を、伐木班と竹伐り班に分かれ実施。通りがかった大人数のハイカーから口々に”見通しがよくなりありがとう”との声。2時頃作業を切り上げ、子ども交流館へ帰館。待ち受けていた女性陣からバレンタインデーのチョコを数個づつ手渡され、早速口にすると、作業と歩きの疲れが和らいだ。



朝 礼



伐 木 作 業



竹伐り

2月28日(土) 定例活動 矢田山遊びの森

春の到来を思わせる穏やかなこの日、20名が参集。午前中は、紙漉き用材料づくりの女性陣を残し、他はFV連「緑の募金」助成事業である竹林整備のため、榊野工務店裏の竹林へ。まだまだ多くの竹があり、まずは枯れた竹の処理を優先的にいき、あと3月28日開催のイベント、竹の利活用として竹クラフト用として青竹を伐りだして子ども交流館へ運んだ。

午後は、3月に県関係者の手で行われる芝生広場でのさくらの植樹用の竹の支柱づくりと、椎茸銀行の柵の補修とに分かれての作業。終了後の理事会では、

- ・春日奥山古事の森のシンポジウムが6月20日に開催
- ・林野庁の新年度助成事業説明会が3月16日開催
- ・東日本大災害復興支援事業”プロジェクトどんぐり”の苗木を5月に福島で開催される植樹祭に送り届けるため、3月28日開催のイベント参加の呼び掛けに併せ苗木の回収をする

との報告があり。次いで新年度の各種助成事業につき検討、今年度と同様に応募することを決め、担当者並びにそのサブの人選を行い、申請内容の検討を3月18日に行うこととした。



竹林整備



椎茸銀行柵の補修作業



3月1日(日) 自主活動 矢田山遊びの森

生憎の雨の為、活動はないものの、子ども交流館へ来た5名が、倉庫内のクラフト用具・材料の整理と機械整備を行った。

3月14日(土) 定例活動 矢田山遊びの森

止みそうで止まない雨で出足が悪かったが17名が参加。女性は紙漉き材料の準備、男性は県自然環境課の

方々による芝生広場周辺でのヤマザクラ 50 本の植樹を手伝った。植樹の手順の手ほどきを受け、2 人一組で順に植えていった。植栽箇所は予めユンボで掘削、パーライト（水捌け用）、肥料、粉炭を下に盛り土がなされており、そこに穴を掘り、竹支柱を打ち込み苗木を固定、埋め戻して水鉢を作り、崩れ防止のため芝土を周りに貼り付けた。最後に記念碑前で記念写真。数年後には、矢田山で桜広場に次ぐ、新しい桜の名所になることでしょう。解散後、希望者が残り、チェーンソーの手入れの講習会を行った。



手順説明



植栽風景



参加者一同

### 3月18日（水） 自主活動 矢田山遊びの森

林野庁助成事業”侵入竹の除伐作業”、今年度最後の活動となるこの日、11名が参加。非常に暖かく、汗をかきながらの作業となった。来年度も引続きやる予定ながら、一応最後の仕上げに精を出した。終了後、臨時理事会を開催。来年度の各種助成事業への応募の対象となる事業内容・作業地を検討し担当者の確定、並びに県森林月間協賛イベントの詳細を取り纏めた。

### 3月21～22日 研修会 曾爾村

FV 連主催、「緑と水の森林ファンド」の助成事業として、研修会”森林ボランティアリーダーの養成と村おこし支援と交流”が漆ぬるべの郷（曾爾村）で開催され、当クラブを含む県下4団体女性3名を含め23名（内2名は日帰り）が参加。漆ぬるべ会吉田会長、並びに同村塩井地区の総代はじめ皆様のご指導・協力の下実施。

21日、12時半開会。会長の挨拶、趣旨説明後、間伐・竹伐り（2班）・うるし植栽に分かれ、それぞれ現地へ。指導者の手ほどきを受けながらの作業。

- 1) 間伐—民有地の30年生ヒノキ林で予め選木された木々を2人一組で、ロープを架け、チェーンソーで伐倒。混んでおりかつしっかりした枝が多く、掛かり木となること避けられず、これはずしながらかつ倒していった。間伐材は杭丸太として利用することによって4m強で玉切り、林道脇へ搬出。最後に全員でスギの大木（直径40cm弱）をチルホールを使い首尾よくほぼ狙った通りに伐倒。思わず皆が拍手し、記念撮影。
- 2) 竹伐り
  - A 班—道路脇石垣上方で非常に足場が悪く、上空には電線が走っている所での竹の除伐。足を踏みしめ慎重に作業。早めに切り上げうるし植栽地を見学。
  - B 班—段々畑跡地で比較的平坦なところでの作業。ただ一部ツルが絡んだものあり数本をロープで纏めチェーンソーで伐り一挙に引き倒した。
- 3) うるし植栽—会長の指導の下、苗木30本をしっかりと植え込み、乾燥を防ぐため根元周りに敷き草。作業の後竹伐り班へ応援に行く途中、ふきのとうを発見。いい土産と女性達が喜んで持ち帰った。4時過ぎ、宿舎に戻り一休み後、約一時間吉田会長のうるしによる村おこしを苦労話を交えての講演と質疑。引続いての夕食・懇親と交流会は大いに盛り上がった。



22日、当初前日に引続いての作業を予定していたが、曾爾高原ススキ焼き見学に切り替えた。千年以上続いているといわれる年一度のこの行事、天候条件で延び延びとなっていたのがこの日となり、又とない機会故、漆ぬるべ会事務局の吉田氏の案内で現地見学。本行事、御多分に洩れず、年々行事を支えるスタッフが少なくなり、伝統行事の継承が危うくなりつつあり、今後我々ボランティアの支援が期待されており、まずススキ焼きの要領・手順を学んでおくための見学。これも村おこし支援の一環として来年より取組みを検討することとなった。昼過ぎに宿舎に戻り、昼食後閉会式。現地の方々から謝意を頂いて解散。



大木の伐倒成功！



うるし植栽



竹伐り作業



ススキ焼き中の曾爾高原で

### 3月28日(土) 定例活動 矢田山遊びの森

FV連主催の「緑の募金」一般公募による”竹林整備と竹の利活用”イベントを開催。クラブ員17名と一般参加者。更に午前中はリコージャパンより、県下各地から23名(子供を含め)の社員が加わって竹林整備を行った。作業の趣旨・要領を説明の後班別に分かれ、それぞれクラブ員が指導に付き、枯れた竹から先に伐り倒していった。これだけでもかなり整備が進んだ。午後、子供達を中心に午前中に切った竹を使い、笛・花器等づくりを楽しんだ。同時に数名でシイタケ植菌を実施。

一方、東日本大震災復興支援事業として、H25年3月に取り組んだ”プロジェクト・どんぐり”で子供達に家に持ち帰り育ててもらった苗木、5月に福島で予定されている植樹行事に合わせて、送り届けることになったので、持ち寄ってもらい”絆”と印した下げ札(リョウブの輪切り)の裏に、名前・メッセージを書き込んでもらった。”毎日眺めながら育ててきたものが、自分の手から離れるのはちょっと寂しいけれど・・・”との声も。



竹伐り作業風景



竹クラフト



苗木の回収



下げ札にメッセージ

### = 訃 報 =

西山孝夫さん、病氣療養中のところ2月9日逝去されました。  
(享年80歳) 長年、ことのほか活動参加を楽しみにされ、又  
周りの我々を楽しませて頂きました。趣味の切り絵づくりは、  
玄人はだし。ご冥福をお祈りいたします。